

# 学校で教え込む軍事先と選民思想

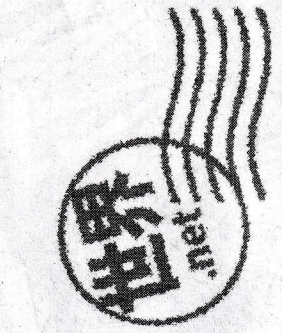
## なぜイスラエルがパレスチナ人を虐殺

イスラエル軍 元兵士が語る非戦論

丹ニール・ネフセタイ 著

抑止力 という考えは もうやめよう。

集英社新書 集英社・1100円



### ダニール・ネフセタイさん



元イスラエル兵

1957年イスラエル生まれ。高校卒業後、木工家具作家。高校卒業後、イスラエル空軍に3年間所属。反戦や脱原発をテーマに講演活動中。近著に『どっつして戦争しちゃいけないの?』（あけび書房）

ホロコーストの犠牲になったユダヤ人の国イスラエルが、なぜパレスチナ人を虐殺しているのか。日本に住む元イスラエル兵、ダニール・ネフセタイさんに聞きました。菅原久栄記者

「民なき土地に土地なき民を」は、シオニズム運動（ユダヤ人国家をソオンの丘があるパレスチナにつくる運動）の一つのスローガンでした。1920年にポーランドからパレスチナに移住してきた祖父も同じ思いだったはず。でもパレ

スチナには多くのパレスチナ人がすみ、「民なき土地」ではありませんでした。あの時、共存の道しかないことに気付くべきだったのです。

### 武力で解決不可能

ところが48年の建国直後に第十次中東戦争を経験したイスラエルは「この国だけは何としても守らなければならない」と「武力による平和」を選んでしまいました。悲惨な歴史の教訓を生かさず、ナチスがユダヤ人の人権を奪ったのと同じようにパレスチナ人の人権を奪っています。

ホロコーストについては小学1年生から高校3年生まで授業で教えます。ホロコーストの最大の教訓は人権尊重の大

切さです。でも、イスラエルでは人権尊重ではなく「私たちは世界一の被害者だった」と教えられます。

2003年、ポーランド空軍との合同演習の後、イスラエル空軍はアラブシビツ強制収容所跡地の上空を戦闘機で飛行しました。こんなにすごい戦闘機を持つ強い国になったんだ、とアビールしたのです。

修学旅行でアラブシビツに行った高校生は、「イスラエルは強い軍隊が必要だ」との思いを強くして帰ってきます。授業で旧約聖書を学び、「私たちは神に選ばれたすごい民族」と思うようになる。そうした選民思想はパレスチナ人や周辺諸国を卑下することにつながっています。

一方で、パレスチナ人は「いなかった」ことになされ続けてきました。パレスチナ自治区のあるヨルダン川西岸地区ではユダヤ人入植地がどんどん増えています。でも多くのイスラエル人は、土地をパレスチナ人から「奪った」とは思っていない。

イスラエル中部の私の家の農地には「シユマリ畑」「クバニ畑」といったアラビア語の名前が付

### 兵仔の迫を選ふべきだった



ハマスにとらわれた人質の解放を求めるイスラエル・テルアビブ（ロイター）の抗議デモ＝15日、イスラエル・テルアビブ

た土地がありました。48年まではパレスチナ人の土地だったからです。でも父は「パレスチナ人は逃げた」と言っていました。

イスラエル建国で70万人以上のパレスチナ人が土地を追われた「クバニ」(大災厄)を知ったのは、おとなになってからでした。今ではクバニについて教えること自体が禁止されています。

今、イスラエルの小学校にあるイスラエル地図ではゴラン高原（シリア領）とヨルダン川西岸の線が消え、イスラエル領になっています。こう教育された若者が徴兵でヨルダン川西岸に行く、

人の土地を奪った」と思うはず。イスラエルは武力でパレスチナ国家樹立の夢をつぶせると思っています。しかしそれは不可能です。

戦争の代償はイスラエル国内でも大きく、市民の中にも心的外傷後ストレス障害（PTSD）に苦しむ人が増えています。他者を抑圧して平和に暮らすことはできません。このままではイスラエルはナチスと同じように破滅します。そのことに気付いてほしい。

戦争の代償はイスラエル国内でも大きく、市民の中にも心的外傷後ストレス障害（PTSD）に苦しむ人が増えています。他者を抑圧して平和に暮らすことはできません。このままではイスラエルはナチスと同じように破滅します。そのことに気付いてほしい。

### ラファ侵攻阻止を

イスラエルのガザ最南部ラファへの地上侵攻は絶対に阻止しなければなりません。そんなことをしたらさらに犠牲が増え、憎しみの大爆発は避けられません。

イスラエルへの批判が広がる中、イスラエルでも少しずつ今回の戦争に疑問を持つ人が増えています。

日本は、イスラエルからもパレスチナからも信頼されている数少ない国です。アメリカの言いなりになるのではなく、憲法9条を生かして仲介役を果たしてほしい。それが、平和憲法を持つ日本の使命だと思います。